

梅津新聞

(中世編②)

2020年
5月19日 火曜日

常陸太田市郷土資料館
(西二町 2186)
TEL:0294-72-3201

くわしくふりかえる佐竹氏の470年間(1)

太田城は藤原氏が造ったものだった…

長きにわたりこの地を治めていた佐竹氏でしたが、佐竹氏が常陸国に進出する以前には、藤原一族がこの地で大きな勢力をほこっていました。

秀郷流藤原氏の藤原通延は天仁2年(1109)、太田城を建ててこの地に住み始めました。通延の子通成は佐都郷(里野宮町付近)に移り、孫の通盛は小野崎(瑞龍町)に移ります。また、その兄弟や子も近隣にちらばってそれぞれ

の地を支配しており、この地域一帯が秀郷流藤原一族の勢力圏内でした。

しかし、通盛の子通長が佐竹氏に從いその家臣になってからは勢力が逆転し、佐竹氏が常陸国奥七郡(現在の茨城県北一帯)を治めるようになります。

勃発!! 「金砂合戦」

太田城に入った隆義は、平治の乱で権力を強めていた平氏に近づき、従っていました。それにより治承4年(1180)、源頼朝が平氏を討つために兵を挙げた時、同じ源氏であった佐竹氏はこれに加わらず、不安と怒りをつのらせた頼朝は、ついに佐竹氏を倒すべく、大軍をつれて常陸国へやってきました。

頼朝は太田城にいた4代秀義に対し、抵抗をやめて服従するよう促します。

しかし秀義はそれに応じず、西金砂城(上宮河内町)に立てこもり、ついに旧暦11月4日、籠城する佐竹氏と頼朝軍との戦いが始まりました。

西金砂城は山頂に造られた山城で、西側が絶壁になっているなど、自然の地形を利用した堅い守りの城でした。歴史書『吾妻鏡』には「城より飛び来る矢石多く、もって御方(頼朝)の壮士にあ

たる。御方より射るところの矢ははなはだ山岳の上におよびがたし。(山頂の城からは多くの矢や石が飛んできて頼朝軍の兵士に当たる。一方頼朝軍の放った矢は山頂まで届かない)」「巖石は路を

塞ぎ、人馬ともに行歩を失ふ。(大きな岩が道を塞ぎ、人も馬も前に進めない)」

とあり、頼朝が西金砂城攻略に手を焼いていたのがわかります。このままでは手の打ちようがないと

悟った頼朝軍は作戦を変え、秀義の叔父である義季を説得し、味方に引き入れました。はたして義季の裏切りにより、城の背後から不意をつかれて侵入された秀義は、城を放棄して花園山中(北茨城市)に逃れます。そして頼朝に領地の大半を没収されてしまうのでした。



↑西金砂神社本殿(写真中央)
神社境内全域が城跡となっています。崖の上

初代 昌義【生没年不明】
佐竹郷に住み「佐竹」を名乗って初代となる。馬坂城を居城とし、常陸国奥七郡を支配した。

2代 忠義【?-1180】
馬坂城に居城して、弟の隆義とともに奥七郡を支配した。平家方に味方していたため、1180年源頼朝の挙兵には参加しなかった。

3代 隆義【1118-1183】
居城を馬坂城から太田城に移した。金砂合戦のときは、朝廷守護のため京都にいた。66歳没。

4代 秀義【1151-1226】
1180年頼朝の軍に攻撃を受け、金砂山城にこもって抵抗した。城を攻略された後、花園山中に逃げ延びたが、領地を没収された。1189年頼朝に面会して許され、後に家紋となる軍扇をもらう。

↑関係する歴代当主

知っておきたい日本史

平治の乱(1159)

平清盛と源義朝(頼朝の父)の対立に、藤原氏の内部争いがからんで起こったものです。清盛が勝利をおさめ、平氏はやがて全盛期をむかえることとなります。